

# 2022年3月期第3四半期決算説明会



2022年1月31日  
西日本旅客鉄道株式会社

1

22.3期第3四半期決算及び通期予想の概要

P. 3

---

2

22.3期第3四半期決算及び通期予想（詳細）

P. 7

---

3

ESGの取り組み

P. 18

---

1

22.3期第3四半期決算及び通期予想の概要

P. 3

---

2

22.3期第3四半期決算及び通期予想（詳細）

P. 7

---

3

ESGの取り組み

P. 18

---

# 22.3期第3四半期決算及び通期業績予想の概要

(単位：億円)

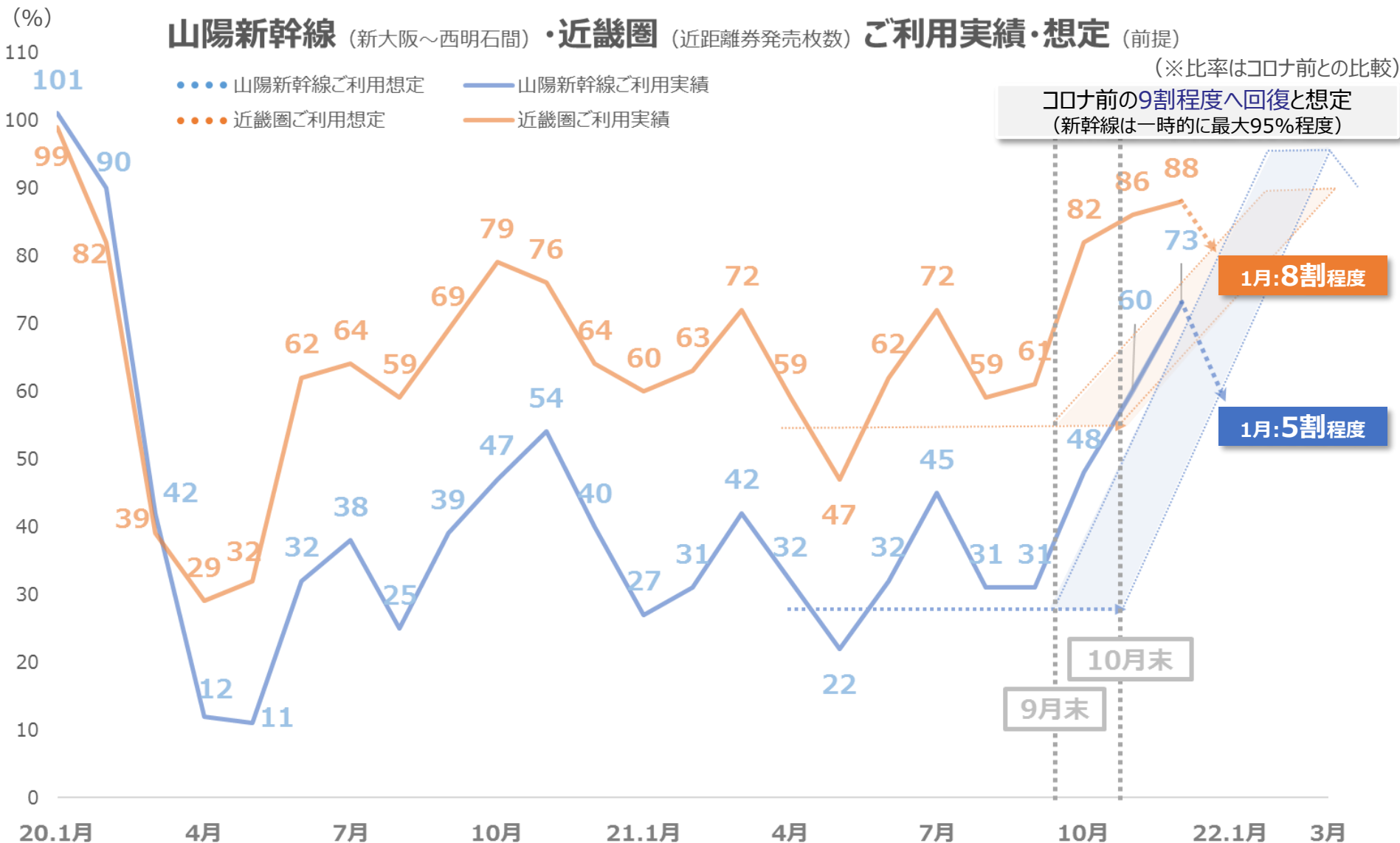
	21.3期	22.3期	対前年		21.3期	22.3期	対前年	
	3Q累計実績*	3Q累計実績	差額	比率	通期実績*	通期予想 (1/31)**	差額	比率
<b>【連結】</b>								
営業収益	6,518	<b>7,299</b>	+780	112.0%	<b>9,200</b>	<b>10,520</b> ~10,890	+1,319 ~+1,689	114.3% ~118.4%
営業費用	8,274	<b>8,094</b>	▲179	97.8%	<b>11,655</b>	<b>11,810</b> ~11,830	+154 ~+174	101.3% ~101.5%
営業利益/損失(▲)	▲1,755	<b>▲794</b>	+960	-	<b>▲2,455</b>	<b>▲1,290</b> ~▲940	+1,165 ~+1,515	-
経常利益/損失(▲)	▲1,892	<b>▲826</b>	+1,066	-	<b>▲2,573</b>	<b>▲1,415</b> ~▲1,065	+1,158 ~+1,508	-
親会社株主に帰属する 当期純利益/損失(▲)	▲1,618	<b>▲540</b>	+1,077	-	<b>▲2,331</b>	<b>▲1,165</b> ~▲815	+1,166 ~+1,516	-
<b>【単体】</b>								
運輸収入	3,150	<b>3,651</b>	+501	115.9%	<b>4,190</b>	<b>4,990</b> ~5,320	+799 ~+1,129	119.1% ~127.0%
営業費用	5,396	<b>5,102</b>	▲293	94.6%	<b>7,406</b>	<b>7,230</b>	▲176	97.6%

\* 2021年3月期の実績は、「収益認識に関する会計基準」を遡って適用した後の数値となっています

\*\* 2021年11月2日発表の通期予想から変更していません

- **第3四半期**は、鉄道事業が上位想定に対して上振れ、非鉄道事業も同様に回復基調。
- **コスト削減**の取り組みについても、構造的削減▲60億円を実現するなど**順調に進捗**
- 一方、オミクロン株感染拡大により、先行きは急速に不透明に。**通期業績予想は据え置く**

# 22.3期運輸収入想定の前提



## ①第3四半期実績

- 新幹線:ほぼ上位想定に沿って推移
- 近畿圏:上位想定を上回って推移

## ②1月以降の見通し

- 1月は新幹線5割程度、近畿圏8割程度と、オミクロン株感染拡大の影響が見られる

ポイント

# 「経営の強靱化（構造改革）」の取り組み

基礎的な運輸収入がコロナ以前の9割に留まっても、安定的な利益を確保できるよう、構造的なコスト削減を進めていく

## 22.3期単体費用予想

20.3期水準（8,421億円）

▲810億円

▲50億円

7,230億円

- コスト削減（緊急的抑制）
- コスト削減（コスト構造改革）
- 収入連動・その他

## 3Q時点進捗

緊急的抑制

▲550億円  
/▲810億円

コスト構造改革

▲50億円 + ▲10億円  
/▲50億円 早期進捗

## 鉄道オペレーションの生産性向上・スリム化

### 地上設備の状態監視に向けたIoT化推進

検査の車上化等と併せ、鉄道設備の検査業務約**1割削減**を目指す（2030年頃）  
（近畿エリアの電気関係では約**4割削減**）  
→総合検測車・電気設備診断システム導入  
（21年11月～試験運用、26.3期の実用化を目指す）



### 自動改札機のCBMソリューション

試行で保守コスト約**3割減**を達成

### 更なる環境変化を踏まえたセルフ化促進と今後の駅の販売体制（非接触利用の推進等）

みどりの窓口の設置駅数概ね**半減**に向け着実に進捗

### 山陽新幹線保守基地新設（21年10月）

大型保守用車による**効率的な保守作業**が可能に

## ご利用に応じた列車ダイヤ適正化

### 22年春ダイヤ改正（22年3月12日）

ご利用の変化に合わせて、全エリア・時間帯でダイヤ見直し  
コロナ前比約**▲8%削減**（20年春ダイヤ改正比・列車キロベース）

## 組織構造改革・働き方改革による効率的な運営

**23.3期採用計画数約200名**（前年比約▲550名）  
本社部門スリム化の一方で、今後の成長を担う地域共生部やビジネスデザイン部を設置（21年6月）  
（本社部門要員：約▲400名）

## 22.3期収支改善の3Q時点の進捗

### 単体営業費用削減

▲610億円 / ▲860億円

### 連結営業費用削減

▲870億円 / ▲1,240億円

### 資産売却

210億円 / 300億円

1

22.3期第3四半期決算及び通期予想の概要

P. 3

---

2

22.3期第3四半期決算及び通期予想（詳細）

P. 7

---

3

ESGの取り組み

P. 18

---

# 決算ハイライト

(単位：億円)

	2021年3月期 3Q累計実績*	2022年3月期 3Q累計実績	対前年		2021年3月期 通期実績*	2022年3月期 通期予想 (1/31)**	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A			増減 D-C	比率(%) D/C
	A	B			C	D		
<b>【連結】</b>								
営業収益	6,518	7,299	+780	112.0	9,200	10,520 ~10,890	+1,319 ~1,689	114.3 ~118.4
営業損失 (▲)	▲ 1,755	▲ 794	+960	-	▲ 2,455	▲ 1,290 ~▲940	+1,165 ~1,515	-
経常損失 (▲)	▲ 1,892	▲ 826	+1,066	-	▲ 2,573	▲ 1,415 ~▲1,065	+1,158 ~1,508	-
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純損失 (▲)	▲ 1,618	▲ 540	+1,077	-	▲ 2,331	▲ 1,165 ~▲815	+1,166 ~1,516	-
<b>【単体】</b>								
営業収益	3,804	4,307	+503	113.2	5,068	5,890 ~6,220	+821 ~1,151	116.2 ~122.7
運輸収入	3,150	3,651	+501	115.9	4,190	4,990 ~5,320	+799 ~1,129	119.1 ~127.0
営業費用	5,396	5,102	▲ 293	94.6	7,406	7,230	▲ 176	97.6
人件費	1,387	1,348	▲ 39	97.2	1,838	1,790	▲ 48	97.3
物件費	2,493	2,326	▲ 167	93.3	3,544	3,535	▲ 9	99.7
動力費	302	294	▲ 7	97.4	395	395	▲ 0	99.8
修繕費	989	895	▲ 94	90.4	1,519	1,395	▲ 124	91.8
業務費	1,201	1,136	▲ 64	94.6	1,628	1,745	+116	107.1
減価償却費	1,036	943	▲ 93	91.0	1,410	1,290	▲ 120	91.5
営業損失 (▲)	▲ 1,592	▲ 795	+796	-	▲ 2,338	▲ 1,340 ~▲1,010	+998 ~1,328	-
経常損失 (▲)	▲ 1,741	▲ 886	+855	-	▲ 2,507	▲ 1,485 ~▲1,155	+1,022 ~1,352	-
四半期（当期）純損失 (▲)	▲ 1,303	▲ 523	+779	-	▲ 2,173	▲ 1,170 ~▲840	+1,003 ~1,333	-

\*2021年3月期の実績は、「収益認識に関する会計基準」を遡って適用した後の数値となっております

\*\*2021年11月2日発表の通期予想から変更していません



# 単体損益計算書と業績予想

(単位：億円)

	2021年3月期 3Q累計実績*	2022年3月期 3Q累計実績	対前年		2021年3月期 通期実績*	2022年3月期 通期予想 (1/31)**	対前年	
			増減	比率(%)			増減	比率(%)
	A	B	B-A	B/A	C	D	D-C	D/C
営業収益	3,804	4,307	+503	113.2	5,068	5,890 ~6,220	+821 ~1,151	116.2 ~122.7
運輸収入	3,150	3,651	+501	115.9	4,190	4,990 ~5,320	+799 ~1,129	119.1 ~127.0
その他収入	654	656	+2	100.3	878	900	+21	102.5
営業費用	5,396	5,102	▲ 293	94.6	7,406	7,230	▲ 176	97.6
人件費	1,387	1,348	▲ 39	97.2	1,838	1,790	▲ 48	97.3
物件費	2,493	2,326	▲ 167	93.3	3,544	3,535	▲ 9	99.7
動力費	302	294	▲ 7	97.4	395	395	▲ 0	99.8
修繕費	989	895	▲ 94	90.4	1,519	1,395	▲ 124	91.8
業務費	1,201	1,136	▲ 64	94.6	1,628	1,745	+116	107.1
線路使用料等	206	200	▲ 6	97.0	276	270	▲ 6	97.7
租税公課	272	285	+12	104.7	336	345	+8	102.4
減価償却費	1,036	943	▲ 93	91.0	1,410	1,290	▲ 120	91.5
営業損失 (▲)	▲ 1,592	▲ 795	+796	-	▲ 2,338	▲ 1,340 ~▲1,010	+998 ~1,328	-
営業外損益	▲ 149	▲ 91	+58	-	▲ 169	▲ 145	+24	-
営業外収益	33	82	+48	-	84	90	+5	-
営業外費用	182	173	▲ 9	-	253	235	▲ 18	-
経常損失 (▲)	▲ 1,741	▲ 886	+855	-	▲ 2,507	▲ 1,485 ~▲1,155	+1,022 ~1,352	-
特別損益	▲ 32	218	+251	-	▲ 239	235	+474	-
特別利益	68	294	+226	-	250	280	+29	-
特別損失	100	75	▲ 24	-	490	45	▲ 445	-
四半期 (当期) 純損失 (▲)	▲ 1,303	▲ 523	+779	-	▲ 2,173	▲ 1,170 ~▲840	+1,003 ~1,333	-

\*2021年3月期の実績は、「収益認識に関する会計基準」を遡って適用した後の数値となっております

\*\*2021年11月2日発表の通期予想から変更していません

# 運輸収入の主な増減要因

(単位：億円)

		2022年3月期 3Q累計実績				
		運輸収入	対前年	主な増減要因		
新幹線		1,581	+334 (126.8%)	基礎トレンド(100.0%)		
				特殊要因	・コロナ影響(国内)の反動増	+342
					等	
在来線	近畿圏	1,580	+125 (108.6%)	基礎トレンド(100.0%)		
				特殊要因	・コロナ影響(国内)の反動増	+121
					等	
在来線	その他	489	+42 (109.4%)	基礎トレンド(100.0%)		
				特殊要因	・コロナ影響(国内)の反動増	+36
					等	
	在来線計	2,070	+167 (108.8%)			
	運輸収入計	3,651	+501 (115.9%)			

※荷物収入は金額些少のため省略

# 運輸収入と旅客輸送量の実績と業績予想

運輸収入

(単位：億円)

輸送人キロ

(単位：百万人キロ)

	3Q累計実績 (4/1~12/31)			3Q実績 (10/1~12/31)			通期実績/予想			3Q累計実績 (4/1~12/31)			3Q実績 (10/1~12/31)			
	2021年 3月期*	2022年 3月期	対前年	2021年 3月期*	2022年 3月期	対前年	2021年 3月期 通期実績*	2022年 3月期 通期予想 (1/31)**	対前年	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年	
全社計	3,150	3,651	+501 115.9%	1,326	1,551	+224 117.0%	4,190	4,990 ~5,320	+799 ~1,129	119.1% 127.0%	25,951	28,273	+2,322 108.9%	10,101	11,008	+906 109.0%
新幹線	1,246	1,581	+334 126.8%	587	751	+163 127.8%	1,655	2,145 ~2,375	+489 ~719	129.6% 143.5%	5,835	7,280	+1,445 124.8%	2,806	3,473	+667 123.8%
定期	77	80	+2 103.7%	25	26	+0 103.7%	101	-	-	-	593	623	+29 105.0%	194	205	+10 105.5%
定期外	1,169	1,500	+331 128.3%	561	724	+162 128.9%	1,553	-	-	-	5,241	6,657	+1,415 127.0%	2,611	3,268	+656 125.1%
在来線	1,903	2,070	+167 108.8%	738	800	+61 108.3%	2,534	2,845 ~2,945	+310 ~410	112.2% 116.2%	20,115	20,993	+877 104.4%	7,295	7,534	+239 103.3%
定期	890	905	+14 101.7%	305	303	▲2 99.3%	1,173	-	-	-	14,516	14,669	+153 101.1%	4,848	4,881	+32 100.7%
定期外	1,012	1,165	+152 115.0%	433	496	+63 114.7%	1,361	-	-	-	5,599	6,323	+724 112.9%	2,446	2,653	+206 108.4%
近畿圏	1,455	1,580	+125 108.6%	556	597	+40 107.3%	1,941	2,175 ~2,240	+233 ~298	112.0% 115.4%	15,907	16,658	+751 104.7%	5,756	5,921	+164 102.9%
定期	728	742	+13 101.9%	250	249	▲1 99.5%	962	-	-	-	11,791	11,983	+191 101.6%	3,971	4,002	+31 100.8%
定期外	726	838	+111 115.4%	306	348	+42 113.7%	979	-	-	-	4,115	4,675	+559 113.6%	1,784	1,918	+133 107.5%
その他	447	489	+42 109.4%	181	202	+20 111.5%	593	670 ~705	+76 ~111	112.9% 118.8%	4,208	4,334	+126 103.0%	1,538	1,613	+74 104.8%
定期	161	163	+1 100.9%	55	54	▲1 98.2%	211	-	-	-	2,724	2,686	▲38 98.6%	876	878	+1 100.2%
定期外	285	326	+40 114.2%	126	148	+21 117.3%	382	-	-	-	1,483	1,647	+164 111.1%	661	734	+72 111.0%

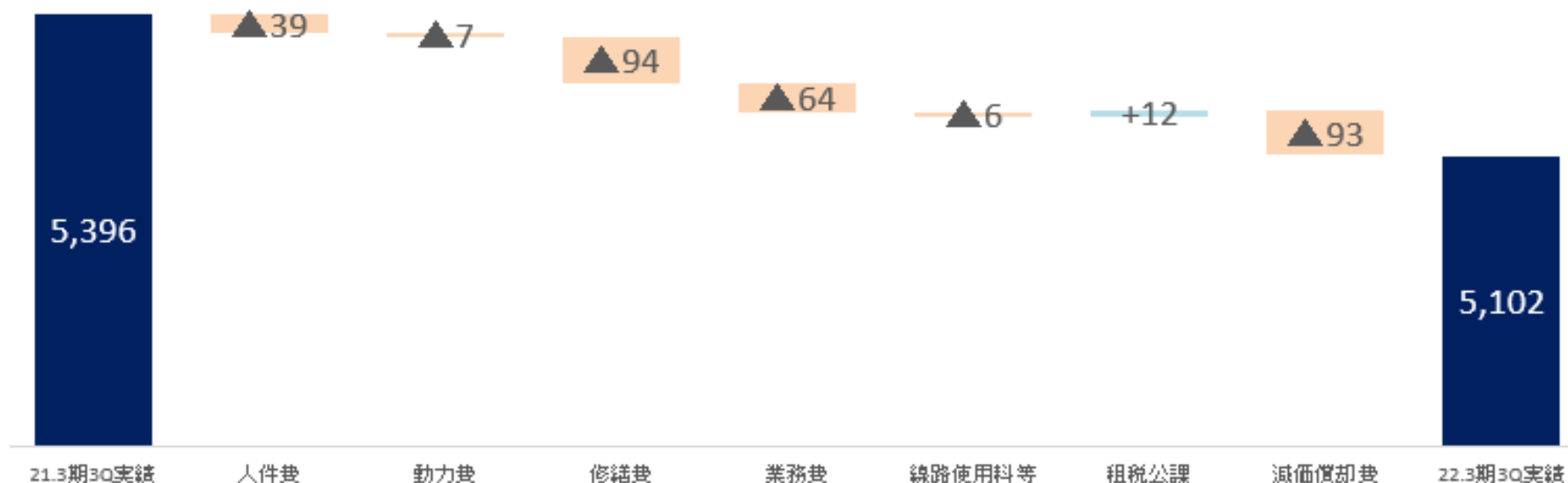
\*2021年3月期の実績は、「収益認識に関する会計基準」を遡って適用した後の数値となっております

\*\*2021年11月2日発表の通期予想から変更していません

# 単体営業費用の主な増減要因

(単位：億円)

	2022年3月期 3Q累計実績			主な増減要因
		対前年		
人件費	1,348	▲ 39	97.2%	賞与の減、人員の減 等
動力費	294	▲ 7	97.4%	車両キロ差 等
修繕費	895	▲ 94	90.4%	工事進捗差、施策抑制による減 等
業務費	1,136	▲ 64	94.6%	会社間清算の減、業務委託費の減、広告宣伝費の減 等
線路使用料等	200	▲ 6	97.0%	東西線使用料の減 等
租税公課	285	+12	104.7%	法人事業税の増 等
減価償却費	943	▲ 93	91.0%	新幹線車両の償却方法見直し 等
営業費用計	5,102	▲ 293	94.6%	



# 連結損益計算書と業績予想

(単位：億円)

	2021年3月期 3Q累計実績*	2022年3月期 3Q累計実績	対前年		2021年3月期 通期実績*	2022年3月期 通期予想 (1/31)**	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A			増減 D-C	比率(%) D/C
	A	B	B-A	B/A	C	D	D-C	D/C
営業収益	6,518	7,299	+780	112.0	9,200	10,520 ~10,890	+1,319 ~1,689	114.3 ~118.4
営業費用	8,274	8,094	▲ 179	97.8	11,655	11,810 ~11,830	+154 ~174	101.3 ~101.5
営業損失 (▲)	▲ 1,755	▲ 794	+960	-	▲ 2,455	▲ 1,290 ~▲940	+1,165 ~1,515	-
営業外損益	▲ 137	▲ 31	+105	-	▲ 118	▲ 125	▲ 6	-
営業外収益	63	160	+97	-	130	132	+1	-
営業外費用	200	192	▲ 8	-	248	257	+8	-
経常損失 (▲)	▲ 1,892	▲ 826	+1,066	-	▲ 2,573	▲ 1,415 ~▲1,065	+1,158 ~1,508	-
特別損益	▲ 96	225	+322	-	▲ 173	240	+413	-
特別利益	118	329	+211	-	319	-	-	-
特別損失	214	104	▲ 110	-	493	-	-	-
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純損失 (▲)	▲ 1,618	▲ 540	+1,077	-	▲ 2,331	▲ 1,165 ~▲815	+1,166 ~1,516	-
四半期包括利益	▲ 1,678	▲ 543	+1,135	-	▲ 2,404	-	-	-

\*2021年3月期の実績は、「収益認識に関する会計基準」を遡って適用した後の数値となっております

\*\*2021年11月2日発表の通期予想から変更しておりません

# セグメント情報と業績予想

(単位：億円)

	2021年3月期 3Q累計実績 <sup>*3</sup>	2022年3月期 3Q累計実績	対前年		2021年3月期 通期実績 <sup>*3</sup>	2022年3月期 通期予想 (1/31) <sup>*4</sup>	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A			増減 D-C	比率(%) D/C
	A	B			C	D		
営業収益 <sup>*1</sup>	6,518	7,299	+780	112.0	9,200	10,520 ~10,890	+1,319 ~1,689	114.3 ~118.4
運輸業	3,540	4,065	+525	114.8	4,697	5,580 ~5,920	+882 ~1,222	118.8 ~126.0
流通業	813	926	+112	113.8	1,087	1,480 ~1,490	+392 ~402	136.1 ~137.0
物販・飲食	661	762	+101	115.3	882	1,212 ~1,222	+329 ~339	137.3 ~138.4
【宿泊特化型ホテル】(再掲) <sup>*2</sup>	【33】	【47】	【+14】	【142.9】	【45】	【75】 ~【85】	【+29】 ~【+39】	【163.1】 ~【184.8】
百貨店	121	132	+11	109.1	163	224	+60	137.1
不動産業	974	998	+23	102.4	1,413	1,530	+116	108.2
ショッピングセンター	309	337	+27	108.9	423	474	+50	112.0
不動産賃貸・販売	647	648	+1	100.2	969	1,035	+65	106.8
【不動産販売】(再掲)	【293】	【291】	【▲1】	【99.3】	【501】	【563】	【+62】	【112.4】
その他	1,190	1,310	+119	110.0	2,002	1,930 ~1,950	▲72 ~▲52	96.4 ~97.4
ホテル	119	140	+20	116.9	153	210 ~230	+56 ~76	137.2 ~150.2
旅行	501	595	+93	118.7	876	702	▲174	80.1
営業損失 (▲) <sup>*1</sup>	▲1,755	▲794	+960	-	▲2,455	▲1,290 ~▲940	+1,165 ~1,515	-
運輸業	▲1,730	▲937	+793	-	▲2,515	▲1,505 ~▲1,170	+1,010 ~1,345	-
流通業	▲112	▲65	+46	-	▲150	▲35 ~▲30	+115 ~120	-
物販・飲食	▲97	▲53	+43	-	▲127	▲37 ~▲31	+90 ~96	-
百貨店	▲15	▲12	+3	-	▲22	0	+22	-
不動産業	232	240	+7	103.4	292	280	▲12	95.7
ショッピングセンター	20	42	+21	208.4	20	39	+18	186.2
不動産賃貸・販売	152	137	▲14	90.4	189	160	▲29	84.5
その他	▲143	▲55	+87	-	▲57	0 ~10	+57 ~67	-
ホテル	▲81	▲69	+11	-	▲116	▲71 ~▲61	+45 ~55	-
旅行	▲95	▲2	+93	-	▲73	▲25	+48	-

<sup>\*1</sup> 各セグメントの内訳は、主な子会社の合計値であり、セグメント計と一致しません。

<sup>\*2</sup> 宿泊特化型ホテル「ヴィアイン」の合計値です。ただし、浅草店（その他業）、広島銀山町店（その他業）は除きます。

<sup>\*3</sup> 2021年3月期の実績は、「収益認識に関する会計基準」を遡って適用した後の数値となっております

<sup>\*4</sup> 2021年11月2日発表の通期予想から変更しておりません

# 各セグメントの主な増減要因

(単位：億円)

			2022年3月期 3Q累計実績			主な増減要因	
			対前年		増減		比率(%)
			増減	比率(%)			
流通業	物販・飲食	営業収益	762	+101	115.3	・緩やかな需要回復による構内店舗、宿泊特化型ホテルの売上増 等	
		営業損失	▲ 53	+43	-		
	百貨店	営業収益	132	+11	109.1	・緩やかな需要回復による店舗の売上の増等	
		営業損失	▲ 12	+3	-		
不動産業	ショッピングセンター	営業収益	337	+27	108.9	・SC売上高回復による賃料収入の増 等	
		営業利益	42	+21	208.4		
	不動産賃貸・販売	営業収益	648	+1	100.2	・賃貸物件の平年度化 等	
		営業利益	137	▲ 14	90.4	・分譲利益率の減 等	
その他	ホテル	営業収益	140	+20	116.9	・緩やかな需要回復による宿泊部門の売上増 等	
		営業損失	▲ 69	+11	-		
	旅行	営業収益	595	+93	118.7	・旅行、非旅行事業の増 等	
		営業損失	▲ 2	+93	-		

※各セグメントの内訳は、主な子会社の合計値であり、セグメント計と一致しません。

# 連結財政状況

(単位：億円)

	2021年3月期 期末* A	2022年3月期 3Q期末 B	増減 B-A
資産	34,773	37,249	+2,475
負債	25,211	25,928	+717
純資産	9,562	11,320	+1,758
長期債務残高	15,595	17,477	+1,882
【長期債務平均金利 (%)】	【1.28】	【1.18】	【▲0.10】
新幹線債務	1,009	1,004	▲5
【新幹線債務平均金利 (%)】	【6.55】	【6.55】	【-】
社債	8,399	9,899	+1,500
【社債平均金利 (%)】	【1.11】	【1.00】	【▲0.11】
自己資本比率 (%)	24.5	27.6	+3.1
1株当たり純資産 (円)	4,461.46	4,214.33	▲247.13

\*2021年3月期の実績は、「収益認識に関する会計基準」を遡って適用した後の数値となっております



# 諸元表

(単位：人、億円)

	2021年3月期 3Q累計実績 <sup>*2</sup>	2022年3月期 3Q累計実績	2021年3月期 通期実績 <sup>*2</sup>	2022年3月期 通期予想(1/31) <sup>*3</sup>
連結ROA (%)	—	—	—	—
連結ROE (%)	—	—	—	—
連結EBITDA <sup>*1</sup>	▲ 471	401	▲ 708	350~700
連結減価償却費	1,275	1,187	1,734	1,635
連結設備投資 (自己資金)	1,261	1,117	2,166	2,450
単体設備投資 (自己資金)	901	790	1,674	1,700
安全関連投資	537	435	1,051	850
1株当たり配当金 (円)	50.0	50.0	100.0	100.0

	2021年3月期 3Q累計実績		2022年3月期 3Q累計実績		2021年3月期 通期実績		2022年3月期 通期予想(1/31) <sup>*3</sup>	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体
期末従業員数 (就業人員)	48,406	23,982	47,212	22,790	47,984	23,900	—	—
金融収支	▲ 143	▲ 130	▲ 138	▲ 137	▲ 195	▲ 178	▲ 211	▲ 190
受取利息・配当金	8	21	22	22	9	24	7	22
支払利息	152	151	160	159	204	202	218	213

<sup>\*1</sup> EBITDA = 営業利益又は損失 + 減価償却費 + のれん償却額

<sup>\*2</sup> 2021年3月期の実績は、「収益認識に関する会計基準」を遡って適用した後の数値となっております

<sup>\*3</sup> 2021年11月2日発表の通期予想から変更しておりません

1

22.3期第3四半期決算及び通期予想の概要

P. 3

---

2

22.3期第3四半期決算及び通期予想（詳細）

P. 7

---

3

ESGの取り組み

P. 18

---

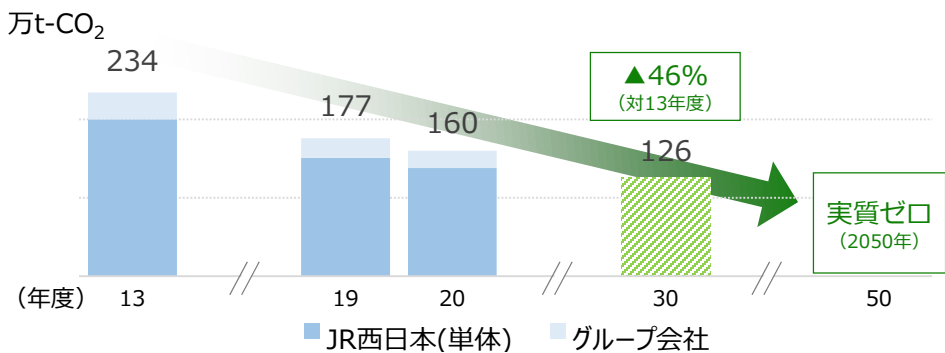
# ESGに関する取り組み

## Environment – CO2削減による温暖化防止



- 環境長期目標「JR西日本グループ ゼロカーボン2050」(2021年4月)
  - 2050年にグループ全体のCO2排出量実質ゼロを目指す
  - 2030年度にグループ全体のCO2排出量▲46%(2013年度比)を目指す
- TCFDへの賛同と情報開示
  - 「地球環境委員会」を設置し、気候変動リスク等をモニタリング
  - 気候変動の影響を特に強く受ける鉄道事業を対象に、リスク・機会の分析、対処について、TCFD提言に基づく情報開示を実施(2021年4月)
  - 抽出したリスク等の定量的な影響想定を行うとともに、運輸収入の推移を試算し、それぞれ開示(2021年12月)
- 不動産開発における再エネ活用など環境負荷低減に向けた取り組み

### CO2排出量の推移



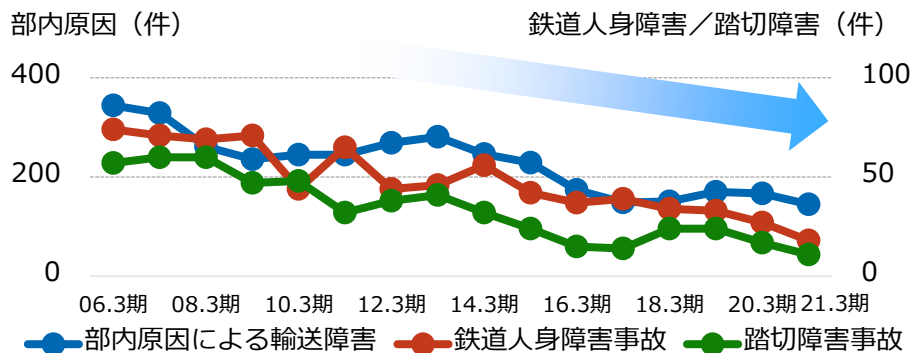
## Society – 安全・安心な鉄道事業を核に、地域の活性化に貢献



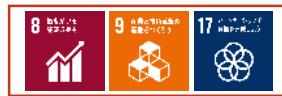
- 「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」に掲げる目標到達に向けた取り組み
- 新型コロナウイルス感染防止対策
  - リアルタイム混雑情報提供サービスの開始(2021年6月) #環状LIVE
- 地域共生の深耕による「訪れたい、住みたいまちづくり」の実現
  - 交流人口・定住人口の拡大
  - 安全で持続可能な鉄道・交通サービスの実現



### 安全指標の推移



## Governance – 経営の監視・監督機能の強化等



- 取締役の13名のうち5名が、監視・監督に特化した独立社外取締役。豊富な経験や専門的知識に基づくアドバイス及びモニタリングを実施
- 役員の人事及び報酬などに係る客観性、公正性及び信頼性を高めることを目的として、過半数を独立社外取締役とする人事報酬諮問委員会を設置(2019年12月)

- 企業価値向上に向け、現時点での取締役会にとって重要と考えるスキルを定義し、各取締役及び監査役のスキル・マトリックスを開示(2021年12月)
- 経営の意思決定、業務執行をよりスピーディに行い、また、これらに対する取締役会のモニタリング機能強化を目的に、監査等委員会設置会社への移行を表明(2022年1月)

# 将来の見通しに関する注意事項

- 本スライドは、JR西日本の事業、産業及び世界の資本市場についてのJR西日本の現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明は、さまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。通常、このような将来への展望に関する表明は、「かもしれない」、「でしょう」、「予定する」、「予想する」、「見積もる」、「計画する」、又はこれらに類似する将来のことを表す表現で表わされています。これらの表明は、将来への予定について審議し、方策を確認し、運営実績やJR西日本の財務状況についての予想を含み、又はその他の将来の展望について述べています。
- 既に知られた若しくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、かかる将来の展望に対する表明に含まれる事柄とも大いに異なる現実の結果を引き起こさないとも限りません。JR西日本は、この将来の展望に対する表明に示された予想が結果的に正しいと約束することはできません。JR西日本の実際の結果は、これら展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。
- 実際の結果を予想と大いに異なるものとしうる重要なリスク及び要因には、以下の項目が含まれますが、それに限られるわけではありません。
  - 財産若しくは人身の損害に関する費用、責任、収入減、若しくは悪い評判
  - 経済の悪化、デフレ及び人口の減少
  - 日本の法律、規則及び政府の方針の不利益となる変更
  - 旅客鉄道会社及び航空会社等の競合企業が採用するサービスの改善、価格の引下げ及びその他の戦略
  - 感染症の発生・流行
  - 地震及びその他の自然災害のリスク、及び情報通信システムの不具合による、鉄道その他業務運営の障害
- 本スライドに掲げられたすべての将来の展望に関する表明は、2022年1月31日現在においてJR西日本に利用可能な情報に基づいて、2022年1月31日現在においてなされたものであり、JR西日本は、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。
- なお、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故に関する今後の補償費用等については、現時点で金額等を合理的に見積もることが困難なことから、本スライドの見通しには含まれておりません。

当資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。

JR西日本ホームページ「IR情報」 <https://www.westjr.co.jp/company/ir/>